

渋谷 PARCO 50 周年記念 パルコの広告表現を通覧する展覧会  
“「パルコを広告する」1969 - 2023 PARCO 広告展”  
11/17(金)より PARCO MUSEUM TOKYO にて開催!



株式会社パルコ（本部：東京都渋谷区）は、渋谷 PARCO 開業 50 周年を記念し、パルコの広告表現を通覧できる展覧会“「パルコを広告する」1969 - 2023 PARCO 広告展”を開催いたします。

本展は、弊社が開業した 1969 年から半世紀を超える広告クリエイティブの歴史を現在の視点で再解釈し、一望できる展覧会となります。

広告はその企業の宣伝活動の一種であり販売促進の手段ではありますが、パルコの広告は 50 年を超えるその時代のトップクリエイターの方々と手を取り合い、コマースの範疇を超えた表現として発信しております。

会場は「2000 年代以降」・「1990 年代」・「1980 年代」・「1970 年代」と 4 つの年代を遡行していくことでパルコの広告の原点が垣間見える構成となっております。エリアごとに時代精神の遷移に対応した「予言」（70 年代）・「広告」（80 年代）・「渋谷」（90 年代）・「アート」（2000 年代以降）といったキーワードを仮説的に設定し、各時代を形造ります。

展示するポスター・CM 作品は、エリアごとにそれぞれ 2 人のゲストキュレーターを招き対談形式で選定し、対談内容を展示会場内で上映するほか、会場で販売する公式リーフレットにも掲載予定です。

#### ●展覧会開催概要

タイトル：「パルコを広告する」1969 - 2023 PARCO 広告展

会期：2023 年 11 月 17 日（金）～ 2023 年 12 月 4 日（月）11:00 ～ 21:00 ※入場は閉場の 30 分前まで。展覧会初日・最終日は 18 時閉場。

会場：PARCO MUSEUM TOKYO（渋谷 PARCO4F/東京都渋谷区宇田川町 15-1）

入場料：無料

展覧会公式 HP：<https://art.parco.jp/>

主催：パルコ 企画制作：パルコ、亜洲中西屋（ASHU）

宣伝デザイン：須山悠里 会場設計：村山圭 映像ディレクション：平野絢士&平野千穂 / 撮影：寺田雅樹 / 音声：林拓身

※会場内混雑緩和の為、入場整理券を配布させて頂く場合がございます。

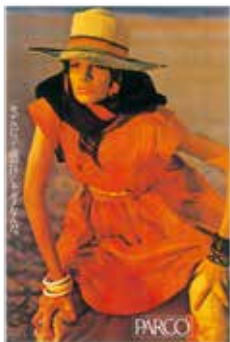
※企画内容は予告なく変更になる場合がございます。

## ● 展示内容

本展では、各時代にキーワードを付して、「2000年代以降～/アート」から、「1990年代/渋谷」、「1980年代/広告」、そして「1970年代/予言」へと時間をさかのぼる構成で、パルコの代表的な広告作品（ポスター、CM映像）を展示いたします。また、時代ごとにお二人ずつゲストキュレーターをお招きし、対談によって展示作品を選出しました。時代相の見巧者たちによって、パルコの広告の歴史が現代的に再解釈・再編集された展示空間を形成します。 ※展示内容については予告なく変更となる場合がございます。

### 1970年代「予言」

アバンギャルドな表現と伝統回帰、ハイカルチャーとサブカルチャーなど相反する価値観の併存は、この時代のパルコの広告表現、文化活動全般の特徴でした。それは現代の多様性を肯定する「予言」の時代でした。



画像左「モデルだって顔だけじゃダメなんだ。」 1975年 AD: 石岡瑛子 C: 長沢岳夫 P: 横須賀功光  
画像右「1977 SUMMER」 1977年 AD: 長谷川好男 I: 山口はるみ

ゲストキュレーター 上野千鶴子氏（社会学者）、はらだ有彩氏（テキスタイルーター）



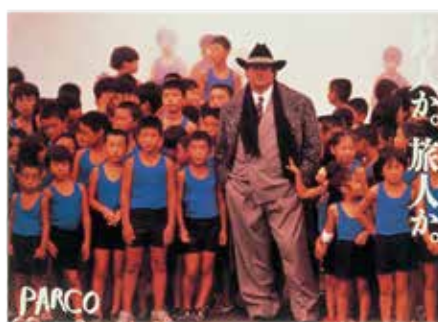
上野千鶴子 Chizuko Ueno  
社会学者、東京大学名誉教授、認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク（WAN）理事長、一般財団法人上野千鶴子基金理事長。1948年富山県生まれ。京都大学大学院社会学博士課程修了、社会学博士。専門は女性学、ジェンダー研究。高齢者の介護とケアも研究テーマとしている。『おひとりさまの老後』『ケアの社会学』『女ざらい ニッポンのミソジニー』など著書多数。近刊に『女の子はどう生きるか、教えて！上野先生』『フェミニズムがひらいた道』など。



はらだ有彩 Arisa Harada  
テキスト、イラストレーション、テキスタイルを作る「テキスタイルーター」。1985年兵庫県生まれ。著書に『日本のヤバイ女の子』シリーズ、『百女百様～街で見かけた女性たち』『女ももだち ガール・ミーツ・ガールから始まる物語』『ダメじゃないんじゃないじゃない』『デモニッシュな女の子のためのファッションブランド「mon.you.moyo」代表。雑誌・ウェブメディアなどでエッセイ・小説を連載中。

### 1980年代「広告」

表層的には明るく軽やかでありながらも、ある種“難解”さを漂わせていた「広告」は、表現ジャンルの花形であり、トップクリエイターが時代相の切り取りを競うことで、より洗練されていった時代でした。



画像左「昨日は、何時間生きていましたか。」 1985年 AD: 井上嗣也 C: 仲畑貴志 P: 加納典明  
画像右「狩人か。旅人か。」 1983年 AD: 井上嗣也 C: 糸井重里 P: 十文字美信

ゲストキュレーター 榎木野衣氏（美術批評家）、菅付雅信氏（編集者）



榎木野衣 Noi Sawaragi  
美術批評家。1962年秩父市生まれ。同志社大学文学部文化学科を卒業後、東京を拠点に批評活動始める。1991年に最初の評論集『シミュレシオンズム』（増補版＝ちくま学芸文庫）を刊行、批評活動始める。著書に『日本・現代・美術』（新潮社）、『黒い太陽と赤いカニ―岡本太郎の日本―』（中央公論新社）、『『爆心地』の芸術』（晶文社）、『戦争と万博』（美術出版社）、『美術にながら起こったか』（国書刊行会）他。展覧会も多数手がける。



菅付雅信 Masanobu Sugatsuke  
編集者、株式会社グーテンベルクオーケストラ代表取締役、東北芸術工科大学教授。1964年宮崎県生まれ。『月刊カドカワ』『CUT』『エスカティア 日本版』編集部を経て独立。『コンボジット』『インビテーション』『エコロ』の編集長を務め、出版物の編集からコンサルティングを手がける。著書に『はじめての編集』『物欲なき世界』『写真が終わる前に』等。アートブック出版社ユナイテッドヴァカボンスの代表も務める。下北沢 B&B にて『編集スバルタ塾』、渋谷パルコ GAKU にて『東京芸術中学』を主宰。

## 1990年代「渋谷」

1990年代に入り、「渋谷」は日本におけるストリートカルチャーの中心地となりました。特に渋谷系の音楽やガリーカルチャーは親和性が高く、その代表格である方々がパルコの広告に颯爽と登場しました。パルコの広告を媒介に「渋谷」へ世界の才能が集い、共振、そして広がっていった時代でした。



画像左「いっしょ、美人に。」 1998年 AD: 秋山具義 C: 糸井重里 P: エンリケ・バドレスク

画像中「やっぱり、友だちだよ。」 1996年 AD: タイクーングラフィックス C: 加藤麻司 P: ソフィア・コッポラ

画像右「HAPPY BIRTHDAY P'PARCO」 1996年 AD: 信藤三雄 P: 稲葉ゲン

ゲストキュレーター 野宮真貴氏（歌手・エッセイスト）、千葉雅也氏（哲学者・作家）



野宮真貴 Maki Nomiya

歌手、エッセイスト。1960年北海道生まれ。1981年、アルバム『ピンクの心』でソロデビュー。その後ポータブル・ロックを経て、80年代ニューウェイヴシーンを代表する存在に。ピチカート・ファイヴ3代目ヴォーカリストとして、90年代に一世を風靡した“渋谷系”ムーブメントを国内外で巻き起こし、音楽・ファッションアイコンとなる。2001年からソロアーティストとして活動。2012年からは、渋谷系とそのルーツの名曲を歌い継ぐ音楽プロジェクト「野宮真貴、渋谷系を歌う。」を展開、5作のアルバムをリリースし、ライブ活動を精力的に行う。2021年にデビュー40周年を迎え、音楽、エッセイ、ファッション、ビューティー&ヘルスのプロデュースなど多方面で活躍している。



千葉雅也 Masaya Chiba

哲学者、作家。1978年栃木県生まれ。立命館大学大学院先端総合学術研究科教授。『動きすぎたはげない：ジル・ドゥルーズと生成変化の哲学』（紀伊國屋じんぶん大賞2013、第5回表象文化論学会賞）、『勉強の哲学』、『デッドライン』（第41回野間文芸新人賞）、「マジックミラー」（第45回川端康成文学賞）、『現代思想入門』（新書大賞2023）など。

## 2000年代以降「アート」

2000年代を境に広告を含む文化状況の中で「アート」が存在感を増し、今や「アート」は国民的コンテンツになりました。同時並行でデジタル表現も拡大し、広告表現も変化していきました。目まぐるしい変化がある現在ですが、パルコの広告は「アート」と共存し合い、イメージの喚起力に賭ける流儀を絶やさずに表現されています。



画像左「PARCO SAYS,」 2005年 AD: 箭内道彦 C: 山本佳宏 P: 重森豊太郎

画像右「NO MORE IMAGE! PARCO」 2001年 AD: 佐藤可士和 C: 谷山雅計 I: 谷田一郎



ゲストキュレーター 布施琳太郎氏（アーティスト）、野村由芽氏（編集者）



布施琳太郎 Rintaro Fuse

アーティスト。1994年生まれ。iPhoneの発売以降の都市で可能な「新しい孤独」や「二人であること」を、絵画や映像作品、ウェブサイトの制作、批評や詩などの執筆、展覧会企画をアーティストや詩人、デザイナー、音楽家、批評家、匿名の人々などと共に実践している。東京藝術大学美術学部絵画科（油画）を卒業後、同大学大学院映像研究科（メディア映像）を修了。詩集に『涙のカタログ』（PARCO出版、2023年）。



野村由芽 Yume Nomura

編集者。1986年栃木県生まれ。広告会社勤務を経て、2012年にCINRAに入社。カルチャーメディアCINRA.NETの編集、企画、営業に携わった後、2017年に同僚の竹中万季と共に、「自分らしく生きる女性を祝福するライフ&カルチャーコミュニティ“She is”」を立ち上げ、編集長を務める。2021年に竹中と共に me and youとして独立。性にまつわることを自分の温度で話しはじめてみるPodcast「わたしたちのスリープオーバー」を配信中。

●記念グッズ

本展覧会の開催を記念し、展覧会公式リーフレット及び、記念グッズの販売を実施いたします。

・公式リーフレット

販売価格：1,200 円（税込）

サイズ：A3 変形

